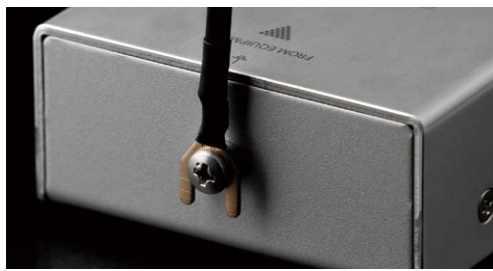




大人気を博しているKOJO TECHNOLOGYの仮想アース「Crystal E」(¥31,200/税別)



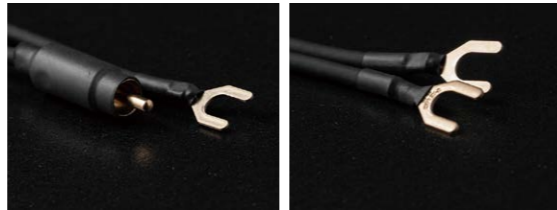
アース端子は専用工具なしによる締め付けが可能となるように、ローレット付ネジ(M4)を採用していたが、アース線とのより確実な接続(接触抵抗の低減)を確保するため、SUS製M4バインドネジに変更(要プラスドライバーNo.2サイズ)



アース端子は前面とリアに各1端子ずつ設置。ひとつはオーディオ機器との接続に、もう一方は「Crystal E」増設用の端子として使用できる



写真下は「ForcebarEP」に内蔵された積層構造の仮想アース。従来モデルは①銅/②黄銅/③銅/④黄銅/⑤銅/⑥スチールという6層構成であったが、写真上の「Crystal E」では①ステンレス(SUS)/②黄銅/③銅/④黄銅/⑤銅/⑥黄銅/⑦銅/⑧黄銅という8層構成で、一部素材変更を加えている。各レイヤー間は0.5mmのスペースを設け、レイヤー間の面接触を完全回避



「Crystal E」には1.2mの専用アースケーブルが2セット付属。ひとつはRCA-Y端子仕様で、もうひとつはY端子-Y端子仕様。線材は高周波特性に優れた同軸ケーブルで、端子には金メッキを採用



KOJO TECHNOLOGY Crystal E



仮想アース ¥31,200(税別)

Specifications

●構成：仮想アース端子台、M4×2端子(ステンレスネジ) ●サイズ：80W×111D×35Hmm(端子や突起物含まず) ●質量：約775g ●付属品：専用アースケーブル×2本(RCA-Y端子とY端子-Y端子※いずれも金メッキ仕様で1.2m) ●取り扱い：(株)光城精工

光城精工の最新機軸「クリスタルシリーズ」の魅力
大ブームを迎えた仮想アース
デジタル／アナログ岐型のタップも登場

KOJO TECHNOLOGY(光城精工)より発売中の仮想アース「Crystal E」が大人気を博している。その絶大な効果とコストパフォーマンスの高さ、そして2台をシヨイントしての使用も可能。幅広い用途で使用できるアイテムとして生産が間に合っていないほどの大ブームとなっている。本年度の「オーディオアクセサリ銘機賞2021」で高い評価を得て、本機だけの唯の賞として、特別開発賞を受賞している。そこで本項ではこの仮想アース「Crystal E」の実力を小原由夫氏が初検証。さらに今回は新製品も登場。電源ラインをデジタル系機器とアナログ系機器に系統分けを行う分岐型電源タップ2モデル(ノイズフィルター付きと無し)である。これらの製品も含めてクリスタルシリーズの魅力を堪能している。

Text by
小原由夫
Yoshio Obara

Cインレット、ACコンセント、基板等のすべてのパーツをサブシャーシに固定し、外装ケース(トッパカバー)やボトムシャーシから宙吊り状態でフロートイングさせることで、電源タップを外部振動からシャットアウトする構想だ。この「M・I・S」をより効果的に足らしめるべく、電源ケーブルのインレットやACプラグを差し込んだ際、外装部分と接触することのないよう切り欠き(開口)部を広く取っていることも見逃せない。これも不要振動防止に大きな効能が期待できる。

一方では、従来機ではチタン製スベーパーを用いていたトッパカバーとサブシャーシの接合部には、制振合金「M2052」を新たに採用し、広い周波数帯域におよぶ不要振動を効果的に減衰させることに成功したという。

ちなみにM2052は、国立の材料研究機関が特許を有する、マンガン／銅／ニッケル／鉄で構成された合金で、振動負荷を受けた際にその内部で減衰作用が生じ、既存金属や合金とは異なる高い制振性を生むことが特徴だ。

「Crystal C2P2」の内蔵フィルターは、落雷対策用のサージアブソーバーと、2系統に分離されたノイズフィルターという構成。基板は両面の銅箔パターンで、ハンタも吟味されたものが使用されている模様だ。「2P2」にはノイズフィルターは非内蔵で、サージアブソーバーのみ搭載。双方とも内部配線材は、従来機の4N無酸素銅から錫メッキ1.6mmに変更された。もちろん単線線、最短経路で配線されていることは言うまでもない。

「Crystal 3P/3.1」は、いずれも3口のコンセントを備える。違いは連結機構か、2Pコンセントを備えるかである。

人気の仮想アースのほか最新の電源タップも試験
青森県から「世界中の電源をきれいに」のスローガンを発信し、オーディオ用クリーン電源を始めとした電源関連機器をリリースしている光城精工。同社のメイン事業は産業・医療用の電源装置の製造・販売だが、オーディオ分野の主力商品として電源タップや仮想アースといったアクセサリ類を揃え、人気商品となっている。今回は最新アイテムを試験する機会を得た。仮想アース「Crystal E」と、電源タップ「Crystal C2P2」「Crystal 2P2」および「Crystal 3P」「Crystal 13.1」の5アイテムだ。ここでは自宅テストのインプレッションをお伝えする。

理想のフロートイング構造で素材も大幅にグレードアップ
これら「Crystal」シリーズは、以前の主力ライン「Force Bar」を引き継ぐもので、最新のメソッドやこれまで蓄積されたノウハウを傾注している。電源タップにおけるそのひとつのセールスポイントが、「M・I・S」(メカニカル・アイソレーション・システム)だ。これはA

「Crystal E」には、前述の「M・I・S」は採用されていない。それは、文字通りボトムシャーシから積層構造を積み上げて仮想アースを構成しているからだ。レイヤー素材についても、銅や黄銅、スチールを使った6層構造の従来機に対し、本機は鉄の代わりにステンレスを採用し、全体を8層構造としている点がキーポイント。これにより、より強力なアース効果が期待できる。

基本的な構造はForce Bar EPと同じだが、今回は表面積を従来の1.75倍に拡大した上で、異金属を単純に積層していた従来品に対して、各レイヤー間に0.5mmのスペースを設けて面接

